

雪舟庭園の石材－三郡変成岩を巡る旅－

庭園文化研究分科会 原 裕二

1. 今年度の活動状況

今年度の庭園文化研究分科会では、次のような活動を行った。

- ★平成 31 年 3 月 23 日(土) 出雲市内個人庭園で日本経済新聞社の取材に協力
- ★平成 31 年 4 月 26 日(金)～令和元年 5 月 6 日(月) 島根日日新聞に記事を連載
- ★令和元年 6 月 23 日(日)、30 日(日) 出雲文化伝承館で出雲流庭園講座を開催
- ★令和元年 8 月 24 日(土) 松江歴史館で出雲流庭園講座を開催
- ★出雲流庭園境界地域の庭を視察
 - ・令和元年 9 月 16 日(月) 境港市・庄司家庭園 米子市・深田氏庭園
- ★雪舟庭園の視察
 - ・令和元年 10 月 12 日(土)～13 日(日) 益田市 4 箇所、山口県 5 箇所

出雲流庭園の境界地域についてはもう少し調査を行った後、別の機会に紹介することとする。

今回は益田市から山口市、周南市にある雪舟庭園について大変有意義な視察を行ったので、その報告を行う。

2. 雪舟の略歴

雪舟等揚(せつしゅうとうよう) 一室町時代の画僧。

- ・1420 年(応永 27 年) 備中国・赤浜村(総社市赤浜)に生まれる。
- ・幼少期に宝福寺(総社市井尻野)に入る。
- ・その後、京都の相国寺(臨済宗相国寺派)で修行。
- ・1464 年(45 歳) 山口の雲谷庵に住む。
- ・1467 年(48 歳) 遣明船に乗り、中国に渡る。
- ・1469 年(50 歳) 日本へ帰国。
- ・1476 年(57 歳) 大分の天開図画楼に住む。
- ・1479 年(60 歳) 益田を訪れる。その後、東国、美濃、京都を旅する。
- ・1484 年(65 歳) 山口に帰る。画業に専念する。
- ・1506 年(永正 3 年) 87 歳で死去。終焉の地は、山口市、益田市、岡山県芳井町がそれぞれ主張しているが確定していない。東福寺誌その他の資料では、岡山県芳井町天神山にあった重玄寺とされている。



雲谷等益筆(常栄寺)

3. 雪舟庭園の特徴

- ・池泉観賞式あるいは回遊式庭園。
- ・自身が描いた山水画の世界を表している。
- ・仏教由来の三尊石や須弥山石と、神仙思想由来の蓬莱山や亀島鶴島などが一緒になった石組みであり、池泉と合わせて表現されている。

- ・臨濟宗の寺院に多いが、時宗や天台宗、浄土宗、真言宗の場合もある。
- ・そのほとんどが三郡変成岩の分布域に位置する(1箇所はペルム紀付加体混在岩)。
- ・庭石は、その中の砂質片岩、泥質片岩、珪質片岩を用いている。

4. 雪舟ゆかりの庭園

(1) 雪舟の郷記念館

(益田市乙吉町)

八景園は花崗岩っぽい石や白砂が使われていて、あまり雪舟庭園らしくないが、隣接する大喜庵にはそれらしい庭園が造られている。

益田市では雪舟は東光寺(大喜庵)で亡くなったとされている。



写真-1 大喜庵庭園

(2) 萬福寺(益田市東町)

萬福寺は元々平安時代に建立され、当時は安福寺(天台宗)と号して益田川河口付近にあった。

万寿 3 年(1026)万寿の大津波で流失し、その後 1319 年に時宗(浄土宗の一流派)の道場となった。

応安 7 年(1374)現在の地に移築して萬福寺と改称し、益田家の菩提寺となった。

文明 11 年(1479)15 代城主益田兼堯(かねたか)が雪舟を益田に招き、雪舟に本堂裏に庭園を造らせたとされている。



写真-2 萬福寺 泥質片岩

須弥山石、三尊石、礼拝石など仏の世界を表す石組みが主題である。背景の構造物などが見えないように維持することが大変だと話しておられた。

(3) 医光寺(益田市染羽町)

臨濟宗東福寺派。天台宗崇観寺の後身。崇観寺は貞治2年(1363)に現在の医光寺の北西に建立された。

雪舟は天明 10 年(1478)に益田兼高に招かれて崇観寺を訪れ、塔頭のひとつに作庭したと言われている。



写真-3 医光寺 砂質片岩

その後、17代益田宗兼(在位 1483～1544)が医光寺を現在地に建立した後に合併した。つまり雪舟は益田では臨済宗ではなく、時宗と天台宗の寺院で作庭したことになる。

仏教由来の三尊石や遠山石と、神仙思想由来の蓬莱石や亀石などが一緒に表現されている。しだれ桜だけでなく、紅葉も見事である。

(4) 妙義寺(益田市七尾町)

もともとは鎌倉時代の文永年間(1264～1275)に臨済宗として創建された。その後、応永元年(1394)益田市 13代秀兼が寺領を寄進し、曹洞宗に改めて菩提寺とした。

本堂や山門、鐘撞堂が荘厳で見応えがあるだけでなく、裏山の萬歳山の観音三十三箇所(の霊場)や隣接する益田幼稚園などがあって、地域と密接な関係を築いておられる。

本堂裏の中庭には花の庭園が作られている。

京都の庭師に作庭を依頼したとのことだが、沓脱ぎ石や飛石には地元の珪質片岩や砂質片岩、泥質片岩が多く使用されている。



写真-4 妙義寺 沓脱ぎ石
珪質片岩。なかなかこのような
石材はない。



写真-5 妙義寺 灯籠
黒雲母花崗岩。本物の御影石か
もしれない。

庭の一角にある灯籠は大変興味深い。

粗粒な花崗岩で黒雲母がごま塩のように点在している。わずかにピンク色がかった白色である。大東花崗閃緑岩とはやや感じが異なる。

益田市一帯には、神戸市東灘区御影町の御影石が割合多く使われているという報告がある。その可能性は高い。

今まで述べた(1)～(3)の庭園は、益田市東部に位置する。益田市東部では古第三紀のデイサイトや安山岩、新第三紀中新世の砂岩泥岩互層が分布するのだが、庭園がある箇所だけ三郡変成岩の泥質片岩が顔を出している。

(4)の妙義寺があるところは、古第三紀のデイサイトである。益田にやってきた雪舟が妙義寺に庭園を造らなかつたのは、泥質片岩がなかつたから？益田市の菩提寺に遠慮したから？時宗の萬福寺や天台宗の頃の医光寺に作庭していることを考えると、宗派の違いは

関係なさそうである。

(5) 常德寺(山口市阿東町東蔵目喜)

浄土宗鎮西派。天正年間(1573~1593)とされている(防長風土注進案)。

常德寺を訪れたとき、このような山中に雪舟庭園など本当にあるのだろうかと思信半疑であった。

しかし、山門跡に「出銅山 常德寺」とあるのを見て納得がいった。

常德寺から少し西に行ったところに、桜郷銅山がある。

桜郷銅山は奈良時代から金、銀、銅、鉛、亜鉛を産出し、その銅は奈良の大仏の建立にも使われた。主に長門や山口鑄銭司にあった鑄銭所の銅銭の原料とされていた。

長年にわたって稼働し、近代には昭和鉱業や宇部興産が所有していたが、1964年に閉山した。

石灰岩に石英斑岩が貫入した接触交代鉱床(スカルン)である。

このように古代から栄えた土地柄であるので、由緒正しい古刹があったことも頷ける。

周辺はこの石灰岩や白亜紀のデイサイト、花崗岩、安山岩が広く分



写真-6 常德寺 付加体混在岩(砂岩)
雪舟好みの地味な岩石。

布しているが、常德寺があるごく狭い範囲にペルム紀付加体コンプレックス(混在岩)が認められる(図1)。

泥質片岩や砂質片岩の代わりになりそうである。

雪舟が作庭したとすれば、常德寺創建より前になる。

庭園自体は、江戸時代に既に荒廃していた。現在は発掘中であり、庭の形を呈していない。

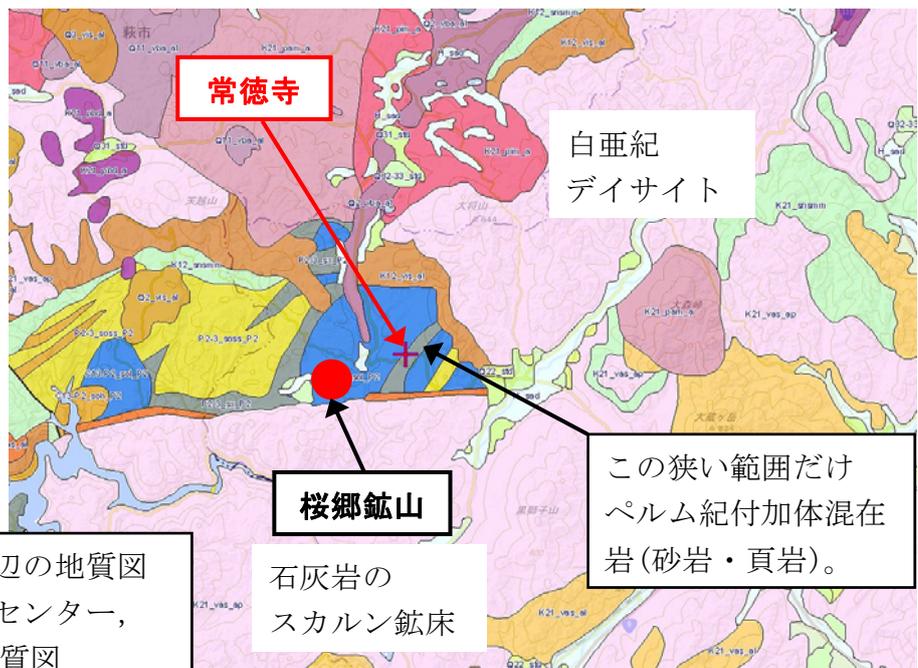


図-1 常德寺周辺の地質図
(地質調査総合センター、
20万分の1地質図)

(6) 常栄寺(山口市宮野下)

臨濟宗東福寺派。常栄寺は永禄 6 年(1563)、毛利元就が安芸吉田に創建し、移転を繰り返して現在に至っている。

庭園は、大内政弘別邸跡に創建した妙喜寺に由来する。大内政弘(1446～1495)は文明年間(1469～1487)、当時山口に滞在していた雪舟に対して庭園の造営を依頼し、本堂の北側に作庭された。

その後、寺名を妙寿寺と改名し、常栄寺の移転によって再度改名することになった。この間、庭園はそのまま維持され続けた。

池泉回遊式庭園となっており、萬福寺、医光寺と並んで、雪舟の代表作である。

仏教由来の枯山水庭や枯滝石組(龍門瀑)と、神仙思想由来の蓬莱石や亀島、鶴島がうまく調和して表現されている。

本堂の南には、重森三玲の南溟庭(なんめいてい)が作られている。

枯山水鑑賞式で、苔による築山、石組み、白砂が絶妙に配置された見事な庭である。



写真-7 常栄寺 雪舟庭 枯滝組



写真-8 常栄寺 雪舟庭 石組



写真-9 常栄寺 泥質片岩の石段
常栄寺は山口市街の北部に位置する。泥質片岩が広く分布する。



写真-10 常栄寺 南溟庭(なんめいてい) 重森三玲の作庭

昭和 43 年に「雪舟より良い庭を造られては困る。上手に下手な庭を作ってほしい。」と依頼され、雪舟が明を訪れ、帰国するまでに往復した海をイメージしたとされている。

雪舟は、備中国・赤浜村(総社市赤浜)生まれ、重森三玲は、備中国・上房郡吉川村(吉備中央町吉川)生まれである。

同郷の新旧の天才が競って作り上げた満足度の高い庭園である。

(7) 善生寺(山口市古熊)

浄土宗。大内氏重臣の内藤家の菩提寺、西方寺があったところである。

寛文4年(1664)に萩の周慶寺が移され、庭園は改修された。周慶



写真-11 善生寺 石組みと池泉

寺は明治初年に廃され、善生寺が移転した。

池泉鑑賞式の庭園であり、雪舟が作ったとすれば、西方寺の時代ということになる。

平成17～18年の発掘調査によって導水路や排水路などの遺構とともに、土師器などの遺物が出土した。

このことから15世紀末頃に自然の沼地を利用して作庭され、当初は、導水路側(東側)から鴻ノ峰(西側)を借景として観賞したと考えられる。

上山口駅の東にあり、泥質片岩と白亜紀デイサイトの境界に位置する。

(8) 龍蔵寺(山口市吉敷)

真言宗御室派。文武2年(698)役小角が紀州熊野権現を勧請して始まった。天平13年(741)行基菩薩がこの霊域にとどまり、自ら千手観音を彫って寺を建て、龍蔵寺と名付けた。

雪舟作と伝えられる庭は境内から溪流を渡った山裾にある。池泉回遊式庭園である。

久しく荒廃していたが、昭和31年重森三玲が復元を手がけ、「流水の庭」として復活させた。



写真-12 龍蔵寺 流水の庭

龍蔵寺は、湯田温泉西方の泥質片岩分布域にあって、寺の石材にも豊富に使用されている。

(9) 漢陽寺(周南市鹿野上山市吉敷)

臨済宗南禅寺派。応安7年(1374)大内弘世・盛見が建立した。

鹿野には大内氏が開いた寺がいくつかあったが、明治初期の廃仏毀釈運動によって多くは廃寺となった。

漢陽寺は白亜紀安山岩溶岩の分布域にあり、庭園にも使用されていると思われる。ここで最後に紹介するのは、重森三玲とその弟子が作庭した7つの庭である。

1. 曹源一滴の庭 山門前参道 桃山時代様式。
2. 曲水の庭 本堂前庭 平安・鎌倉・室町時代様式の融合。
枯山水鑑賞式庭園に流水を使った庭。
3. 祖師西来の庭 本堂の西 弟子の斉藤忠一が作庭。達磨大師が由来。
4. 蓬莱山池庭 書院裏の山裾 鎌倉時代様式。池泉鑑賞式。
5. 地藏遊化の庭 中庭 室町時代様式。枯山水庭園。
6. 九山八海の庭 書院東部 鎌倉時代様式。池泉鑑賞式。
7. 瀟湘八景の庭 聴流殿前庭(非公開) 近代モダン様式。枯山水。

雪舟が深い精神性を現実の庭園に表現したとするなら、重森三玲は圧倒的なパワーとテクニックでモダンな芸術を表したように感じられる。

ひとつの寺院でこれだけ質の高い多種多様な庭園が見られるところは珍しく、山門や本堂などの建築を含めて、時間を忘れて楽しめる場所である。

それを鑑賞するためだけに訪れる価値がある庭園と言える。



写真-13 漢陽寺 曲水の庭



写真-14 漢陽寺 蓬莱山池庭



写真-15 漢陽寺 地藏遊化の庭



写真-16 漢陽寺 九山八海の庭

5. 終わりに

雪舟は臨済宗相国寺で修行した僧侶であり、画僧あるいは画家である。これらの庭園

を雪舟が作ったかどうか確証はない上、そもそも庭園を手がけたかどうかもわからない。
また現地で庭を眺めてみると、様々な疑問が生じる。

- ・ 枯山水は禅宗の隆盛とともに発展してきたのに、雪舟作と言われる庭に池泉式が多いのはなぜ？(臨濟宗の寺院では、本堂前では枯山水、書院や方丈の裏では池泉式のことが多いが・・・)
- ・ 雪舟は臨濟宗の僧侶なのに、庭に古代中国の神仙思想に由来する蓬莱石組や鶴亀石(鳥)があるのはなぜ？
- ・ 寺の成立年代・記録と雪舟の生没年とが合わないケースがある。

しかし江津市小川庭園も含め、島根県石見部から山口県にかけて、雪舟の山水画をそのまま具現化した庭が多数存在する。

いわば雪舟様式といって良い。

雪舟庭園を觀賞すると、出雲流庭園とはまた違った趣があって、一種の清涼感を感じることができる。

機会があれば、ぜひ立ち寄ってみられることをお勧めしたい。

6. 参考文献

- 市村高男(2011)：御影石製中世石造物の分布調査とその学際的研究，科学研究費補助金研究成果報告書，<https://support.nii.ac.jp>
- 井上孝夫：古代採鉱民族の構成，下関市立大学論集，36，1-2，75.
- 岩田純・原田明・福本勝：漢陽寺庭園と作庭家重森三玲，重森庭園設計研究室
- 古川薫(1979)：探訪日本の庭2 山陰，相賀徹夫編集著作，小学館，43-52.
- 国立研究開発法人産業技術総合研究所地質調査総合センター：20万分の1，<https://gbank.gsj.jp/seamless/v2/viewer/>
- 益田市：雪舟の郷記念館パンフレット．益田市観光協会：こころで観る雪舟の庭．
- 益田市教育委員会(2003)：益田市内遺跡発掘調査報告書1，73-89.
- 萬福寺：医光寺：妙義寺：常栄寺：龍蔵寺：漢陽寺：パンフレット
- ライフサイエンス(2019)：見たい、知りたい！日本の庭園，株式会社三笠書房，192-195，208-211.
- 雪舟を語る会(1997)：雪舟ものがたり，芳井町民会館，90-98.
- 重森完途(1979)：探訪日本の庭2 山陰，相賀徹夫編集著作，小学館，149-158.
- 庭園ガイド常栄寺雪舟庭：<https://garden-guide.jp/spot.php?i=jyoueiji>
- 山口県の鉱山のページ-桜郷鉱山：<http://mine-chu.sakura.ne.jp/fpage922.html>
- 山口県の文化財：<http://bunkazai.pref.yamaguchi.lg.jp/bunkazai/detail.asp?mid=110100&pid=b1>
- ウィキペディア：[https://ja.wikipedia.org/wiki/常栄寺_\(山口市\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/常栄寺_(山口市))